

上野議員 被災地支援に 岩手県へ

このほど、日本共産党議員団の上野議員を団長とする被災地支援ボランティア隊が、岩手県釜石市や大槌町などで活動を繰り広げました。

「継続こそ力」と、上野議員は震災以来8度目の被災地訪問です。今回は、呼びかけに応じた10名を超える市民とともに、被災地でボランティア活動を行ったほか、未曾有の災害の実態を再度学んできました。

写真は、仮設住宅で米を配りながら要望を聞き取っている様子です。なお、詳しい活動報告は、次回のニュースで行います。



「こどもの家は地域にとって大切」 「空き家解体補助の対象拡大を」

市民からの多彩な意見・要望

議会報告会・意見交換会

5月14日と15日、市内4カ所で議会主催の「議会報告会・意見交換会」が行われました。

各会場とも、議長（副議長）と議会各委員会の代表が3月議会の報告を行い、その後市民のみなさんとの間で、意見交換が行われました。

福祉交流プラザでは、こどもの家を巡る問題や、空き家の問題に意見が集中しました。こどもの家では、管理人の勤務時間が短縮されたことや町内への譲渡が計画されていることについて、「この1年間当該町内に対して十分な説明がなされなかった」との指摘や、「管理人のいない午前中も各種団体が利用している例もあるが、それはどうなるのか」「古くなって建て替えが必要になったらどう



報告する平良木議員

うするのか」「地域にとっては大事な建物。各町内に小さな公共建物がたくさんあることは高齢社会にとっても大事」「弱い立場の子どもたちが使っていることも市にはわかってほしい」といった意見や質問が出されました。

空き家問題では、「補助対象が市民税非課税など、かなり限られているが、もっと対象を拡大して利用しやすくしてほしい」「柱が破損した空き家を、危険防止のため、やむなく町内で応急修理をしたという例もある。危険なもの、個人財産云々とは誰も言わない。ぜひ対象を広げてほしい」といった意見・要望が出されました。

このほか、「仲町の古い流雪溝のふたをぜひ改良してほしい」「謙信公祭でのタレントの招聘はいつまでやるのか。本来の姿にもどすべきではないか」「10年以上たつとまたリフォームが必要になるが、住宅リフォーム助成は、1回しか対象にならないのか」「消防団の欠員が多い。たくさん応募できる環境整備をすべしだ」「地域支援事業の提案は、地域からの提案なのか疑問なものもある。無理して出させているのではないか」といった声が出されました。

なお、14日の福祉交流プラザと15日の八千浦交流館はまぐみでは、日本共産党議員団の平良木議員が厚生常任委員会副委員長として、委員会審議の状況を報告しました。

初乗り運賃軽減・優等列車存続などの課題解決めざす

在来線を守る三市連絡会が定期総会で方針を確認

並行在来線を守る活動を進めている多くの市民団体のうち、最も歴史の長い「在来線を守る三市連絡会」が、このほど総会を開き今後の活動方針を確認しました。

並行在来線を巡っては、830億円の国

からの支援の具体的内容が明らかになっていないこと、5年間運賃を据え置いても乗り継ぎの際に初乗運賃が発生すると実質的に値上げになること、新潟方面への優等列車の存続が明確になっていないことなど、未解決の問題

が少なくありません。

開業まであと10ヶ月となる中で、これらの問題解決のためには「今ががんばりどき」として、引き続き力を合わせていく方針を確認しました。



日本共産党上越市議員団ニュース

No.411 2014年5月25日

連絡先

橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)